



地域資源を活用したコーヒー羊羹で 販路開拓に挑む和菓子店を伴走支援

課題

自店舗の集客力アップや 地域外への販路拡大

浜田市三隅町に店を構える有限会社光明堂は、創業から90年以上の老舗として、地域での知名度が高い和菓子店である。創業時からの配合や製法を守り、かまどや薪を使って製造される「三隅羊羹」は今も同店の看板商品だ。以前は2代目の経営者のもと自店舗での販売のみだったが、近年では後継者の息子が中心となって道の駅や地元スーパーの卸売販売も行い、販路を広げている。

しかし、こうして卸売販売の店舗数が伸びる一方で、自店舗での売り上げは減少傾向だった。現在は、自店舗販売と卸売販売の売り上げ比率は半々だが、今後は、卸売販売が店舗販売を上回ることが十分に予想される。ただ、卸売販売の主力となっている道の駅も、山陰道浜田・三隅道路の開通で利用者が減少しており、現在建設中の益田市までの自動車道も完成すれば、さらに三隅町は素通りされる懸念がある。

地域の人口減少も進んでいるなか、もはや生き残っていくためには、地域外での新たな販路開拓が不可欠であるとともに、自動車道の整備を好機と捉えた店の集客力向上に取り組む必要がある。そう考えた同店ではまず、地域資源を活用した新商品を開発すべく、2017年、パッケージ製作などに活用できる補助金について石央商工会に相談した。

支援

経営革新計画の策定や 各種補助金を活用

同店が開発を検討していたのは、三隅町出身で世界で初めて缶コーヒーを開発したとされる三浦義武氏が提供した「ヨシタケコーヒー」を使ったコーヒー羊羹だった。商工会では、「ヨシタケコーヒー」を使用した加工品は市内のどこの事業者もつくっておらず、店の新たな顔としての新規性が高いと判断。パッケージ制作のための持続化補助金の活用を支援した。さらに、後継者のアイデアであったため、今後の事業承継も見据えて取り組みを可視化する必要性から、経営革新計画の策定を提案。経営者と後継者、商工会の3者で協議を重ねながら、計画を策定し、承認を得た。

新商品のコーヒー羊羹「羹珈琲」が商品化されると、商工会では、伴走型小規模事業者支援補助金を活用し、首都圏への販路開拓支援も実施。展示商談会で必要となるスキルを身



店内での支援風景

につけるセミナーに参加してもらったうえで、2018年には「スーパーマーケットトレードショー 2018」に出展。商工会職員とともに販路開拓を行った。さらに同年、自店舗の集客力アップを図るため、新店舗の建設も支援。島根県の事業承継新事業活動支援補助金を活用するとともに、資金調達にはマル経資金も活用した。

こうした取り組みの結果、コーヒー羊羹はメディアにも取り上げられ、売れ行きは好評。新店舗には以前よりも来店客が増え、トレードショーへの出展以降、新規の取引先も獲得している。

支援の経過

| 期間 | 支援内容 |
|---------------------|--------------|
| 2017年4月～12月 | 持続化補助金の活用支援 |
| 4月～7月 | 経営革新計画の策定支援 |
| 2017年7月～ 2018年2月 | 伴走型補助金の活用支援 |
| 2018年4月～ 2019年2月 | 事業承継補助金の活用支援 |

会社概要

会社名：有限会社光明堂
住所：島根県浜田市三隅町三隅1091-1
電話番号：0855-32-0117
代表者名：杉山廣和
創業年：1994年
従業員数：1名
商工会名・担当者名：石央商工会・中田剛